



無党派

官民連携の推進を！

小梶 昌巳



Q 日本の食文化であるおにぎりを切り口に、地域ブランド化や地域活性化に取り組んでいる「一般社団法人おにぎり協会」という団体がある。加入自治体では、地域食材を活用した商品開発、観光イベント、ふるさと寄附との連携、SNS発信などで、地域ブランドづくりや交流人口の拡大につなげている。

本市や滋賀県には全国に誇れる魅力的なお米「みずかがみ」「きらみずき」などがあり、食を活用した地域ブランド戦略の一環で、同協会へ自治体会員として加入してはどうか。

A 本市は既にコメの持つ栄養や健康効果などのPRを通じた「毎月8日はお米の日」活動や田んぼの学校事業、オーガニックビレッジ宣言による有機米の推進、消費地との農業連携などによって、同協会と同じ取り組みを独自に実施しており、現時点では加入は考えていません。

Q 小学生の下校時における熱中症対策の強化が必要と考えるが、地域や企業などで余っている冷凍庫を小学校へ寄附いただくことで、ネッククーラーなどの保冷グッズを冷やせる環境を整備することはできないか。

A 保冷グッズを冷やせる環境を官民連携によって整備することは考えていませんが、熱中症対策に資する日傘や飲料水など、寄附の申し出があれば有効に活用させていただきます。



万葉会

連絡通路は必要か

西川 清里



Q 近江鉄道八日市駅東西連絡通路の整備については反対の立場である。公共施設やインフラの整備においては、建設時の事業だけでなく完成後の維持管理や安全性の確保まで見据えた検討が必要であり、その後何十年にもわたり安全に利用され続けることが重要だと考えるが、

①屋根がない設計とした理由は、②想定している利用者数1日429人の内訳は、

③落ち葉、降雨、積雪や凍結時の安全対策と清掃や設備管理を含めた維持管理体制についての考えは、

④長期的な安全性を確保していく考えは。

A ①延命公園の美しい眺望や近江鉄道の列車を上空から見下ろせる魅力的なビュースポットとして、歩いて楽しい「開放的なデザイン」を最優先に計画しました。

②近江鉄道乗車数のうち、西側から利用される方が1日288



屋根のない東西連絡通路（イメージ図）



万葉会

使われる公共交通にするために

中村 和広



Q 公共交通について、

①中東情勢による燃料費など物価高騰で困っている市民のためにも、ちよこつとバス、ちよこつとタクシーの運賃は上げるべきでないと考えてるが、

②ちよこつとタクシーのエリア運行について、対象エリアの拡充に対する考えは、

③次期地域公共交通計画において、AIデマンド交通の実証実験を位置づけては、

A ①現時点では、運賃改定を予定していません。

②ちよこつとタクシーは近江鉄道や路線バスなどの幹線交通を補完するものであり、路線バスや一般タクシー事業者への影響も踏まえ、慎重に検討する必要があります。

③近隣自治体での導入事例も見られることから、その動向を注視していきます。

Q 避難所となる体育館について、



①空調設備の設置状況は、

②緊急防災・減災事業債の発行期限内に空調設備を導入すべきと考えるが、

A ①湖東中学校、総合運動公園布引体育館、能登川アリーナに設置しています。

②中学校を優先的に整備し、小学校は、市の財政状況や国の補助金、統廃合の計画状況などを勘案しながら進めたいと考えています。地域の体育館は現時点では整備を検討していません。

Q 第2期東近江市中心市街地活性化基本計画における事業について、

①「近江鉄道八日市駅東西連絡通路整備事業」と「延命公園整備事業」を同時に実施することにより、中心市街地のにぎわいにどのような効果をもたらすと考えるか、

②これら2つの事業は、単なるインフラ整備ではないと考えるが、市の見解は、

A ①東西連絡通路と延命公園とを一体的に整備することにより、八日市駅東西の回遊性を高め、滞留人口を増やすことができるとともに、駅西側の土地活用の促進にも期待ができる事業です。このことにより中心市街地全体の活性化と駅周辺の魅力の向上が図れると考えています。



延命公園整備事業全体イメージ図

で分断された地域を東西連絡通路により一体化させ、基本計画の理念である「暮らしたい、訪れたい、商いたい」と思える魅力的なまちの整備を目指しています。整備により都市の価値を高め、これまでの中心市街地活性化の成果を発展させることで、さらなるにぎわいを創出させるための事業であると考えています。



東近江市民クラブ

未来への投資と夢の懸け橋

鈴木 則彦

